

事例2

< 事例概要 >

- ・ 70 歳代、甲状腺がん治療中、両側胸水貯留がある患者。
- ・ 中心静脈カテーテル留置後の左気胸に対し、呼吸器内科で胸腔穿刺を実施。
- ・ 穿刺直前にCT 画像で周辺臓器を確認。穿刺部位は、左第 6 肋間前腋窩線を選択。
- ・ 試験穿刺で胸腔までの深さを確認。本穿刺中、内套針を抜いたところ血性排液が約 400 mL あり、カテーテルをクランプ。カテーテルを進め、いったん開放し約 300 mL の血性排液を認め、再びカテーテルをクランプ。緊急開胸手術を実施するが、当日死亡。
- ・ 死因は、心臓（左心室）損傷による出血性ショック。死亡時画像診断（Ai）無、解剖有。